



いつか、ご近所さんたちと一緒に美化活動ができればうれしいですね。

(株)スイコーは、泉区にある住まいの新築やリノベーションを手がける住宅専門店。平成17年から有志を募り、長年にわたって会社周辺のごみ拾いを中心とした美化活動を続けています。そのきっかけや内容について、お話を伺いました。

美化活動を「発見」してもらおう工夫をしています。

聞き手：ごみ拾いのきっかけは、「散歩」と伺いましたが。

千葉さん：そうなんです。私が入社する前の話なのですが、弊社の支店に勤務していた社員が、気分転換に支店周辺を散歩したとき、落ちているごみの多さに驚き、会社の仲間にその話をしたそうなんです。そこで、3人に話してみたところ、「じゃあ、みんなで拾うか」ということになったそうです。当時、支店が川の近くにあったものですから、河川敷のごみが目に入ったのでしょう。これが、美化活動の始まりです。

聞き手：美化活動の輪は、その後、順調に広がっていったのですか。

千葉さん：「そうです!」と答えられれば良いのですが、今のように半分以上の社員が参加するようになるには、2、3年かかりました。何しろ強制ではありませんので、美化活動を行う社員の姿を見ていて、「私もやろうかな」と、じわじわと加わる人が増えたというのが正直なところ。また、人間力を高めることを目的とした社内的な教育の時間を設けることで、みんなの目が自分自身から社内の仲間に向けられ、地域コミュニティへと向けられていったことも関係があると思っています。

聞き手：時間をかけて参加メンバーが増えたいま、どのように活動しているのですか。

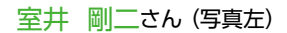
室井さん：私ともう一人が美化活動の担当なのですが、どちらかが実施の前日にアナウンスするようにしていますが、最近では、「明日、まち美化の日だね」と声をかけてくれる社員も増えてきました。社内の周知徹底はバッチリです(笑)。この活動は、営業時間前に行っていますので、子育て中で参加できない社員にも、社内メールのようなものを使って、「今日はこんなことをしたよ」と知らせて情報共有しています。

千葉さん：今は「会社の活動」として行っていますが、「地域コミュニティの活動」になることを目標としています。将来的には、ご近所さまと一緒に実施したいと考えていますので、まずは「こんなことをしているんだ」ということを知ってもらうために、店舗前に看板を設置したり、SNSを使って皆さんに「発見」されるようにしています。

室井さん：その一例が、カフェの前に置かれているような「看板」に、「おススメの映画の情報」や、「今日は何の日?」といったトピックを書き、その裏に「美化活動しています!」といったことを書いて置いているんです。また、お客さま向けのニュースターには、毎回、写真入りでこの活動の報告を行うコーナーも設けています。



千葉 哲也さん (写真右)
プロフィール
宮城県登米市出身。
余暇はもっぱら生まれたばかりの長男と過ごします。



室井 剛二さん (写真左)
プロフィール
福島県南会津出身。
趣味は映画鑑賞(特に洋画)。



活動内容は季節やまちの状況によって変化します。

聞き手：やってみて「大変だな」と感じることはありますか。

千葉さん：参加する人がなかなか増えなかったことです。でも、それをあまり気にせず続けていくことが大切なのではないでしょうか。これからやってみようかなと思っていらっしゃる方には、「人が集まらなくても、決してあきらめないでください。継続すれば参加してくれる人は増えていきますよ」と申しあげたいですね。

聞き手：では、やりがいを感じるのはどんなときですか。

千葉さん：活動を見ていた近隣の方からお電話があり、「ゴミ袋が余っているからあげるよ」など、ご協力のお声をいただいたときでしょうか。また、ご近所の方と「おはようございます」とあいさつを交わしたり、「いつもありがとう」と感謝の言葉をいただいたときはうれしいです。

室井さん：近所の幼稚園の園児さんたちと先生方が、年に二度、花や野菜、果物を持って来店してくれるんです。「いつも、きれいにしてくれてありがとう」とお礼の言葉とその贈り物をいただくのですが、そのときは「やっていて良かった」と感動します。

聞き手：長い間、活動している中で、ごみの内容に変化はありますか。

千葉さん：当初は傘や自転車の部品など、粗大ごみのようなものも落ちていましたが、いまはほとんどなくなりました。一方で、タバコの吸い殻は変わらず多いですね。

室井さん：先ほど河川敷の話をしました。やはり雑草が生い茂っているところなど、ごみが目立たない所にポイ捨てごみが多いのは、変わらない点だと思います。だからこそ、きれいにしておくことが大切だと痛感しています。

千葉さん：家の擁壁に水抜きのために設けられた穴の中に、ペットボトルや空き缶が詰め込まれている光景もよく目にします。やはり、ポイ捨てる心理は「目立たない場所に」ということなのでしょうね。

聞き手：ごみに着目することは、まちに目を向けることにもつながるのですね。

千葉さん：そうですね。秋から冬にかけてはごみよりも、落ち葉集めが活動の中心になったり、冬は雪かきになったりと、清掃活動から安全に配慮した活動へと変わることもあります。その時々で、活動の内容を決めるのは室井さんたちなので、地域の状況などを共有しながら、これからもみんなで力を合わせて、まちの安心や安全につながるような美化活動を続けていきたいと思っています。

【株スイコーのごみ拾いスタイル】

ご近所さんが、一緒に活動できる雰囲気づくりを心がけています。

毎週火曜日の朝8時から30分間、会社の近隣のごみ拾いと落ち葉集めなどを行っています。会社で用意した火ばさみや竹ぼうき、ゴミ袋を手にスタート。コースは美化活動担当者が決めています。会社のユニフォームを着ている人もいますが、スタイルはあえて自由にしており、いつでもご近所さんが参加できる雰囲気づくりを心がけているのだとか。活動は写真に撮って記録していますが、ここ1年で500枚ほどになったそうです。

